



インガラバー

NPO法人
日本・ミャンマー
医療人材育成支援協会

〒700-0811
岡山県岡山市番町2丁目6番7号
TEL:086-224-0102
URL:http://www.mjcp.or.jp

ミャンマー野球に かける日本人

協会理事
西崎 健策



▲選手達は子ども達とも交流した
(滋賀県高野連提供)



▲ミャンマーチームと一緒にランニングする
滋賀県の選手達 (滋賀県高野連提供)

ミャンマーへ出かけたことのある人なら、サッカーボールを蹴り合う子どもたちの姿はよく見かけても、キャッチボールで遊ぶ光景にはまず出会わなかったに違いない。人気のサッカーに比べて、影の薄い野球。それが、れっきとしたナショナルチームがあり、それを育て上げたのは日本人なのである。

岩崎亨さん、52歳。国連や国際協力機構（JICA）の薬物対策専門家としてミャンマーで仕事をしてきた。

「日本人なら野球がうまいはず。子どもたちに教えて欲しい」。現地の知人に頼まれたときは、迷った。自身、草野球ぐらゐの経験しかないし、何よりこの地にはボールもバットもクラブもない。それでも引き受けた。「貧困のなか、いくら頑張っても職に就けない若者もいる。スポーツを通じて、彼ら

が少しでも明るくなってくれば」。そう思ったからだ。

話を聞いて、10歳から15、6歳の子が次々集まってきた。同国初の野球チームが生まれた。7年前の春のことだった。

岩崎さんの献身的な指導ぶりがやがて、日本の野球界に伝わる。チームの来日をプロ野球選手会が支援した。私が今年5月まで理事をしていた日本高校野球連盟も、夏の甲子園で繰り広げられる全国高校野球選手権大会に招いたり、バッティングマシンを贈ったりした。

とりわけ交流に熱心なのが滋賀県高校野球連盟だ。一昨年、加盟校の監督や審判員らがヤンゴンへ出かけ、技術指導に当たったのに続き、昨年は選手18人を派遣し、5試合戦った。

沼地を2年がかりで整備した、いわば手づくりのグラウンドはでこ

ぼこだらけ。球は不規則に跳ね、走塁では足を取られた。

「自分たちがどれだけ恵まれた環境で野球をしているか、改めて思い知ることができた」「ミャンマーの人から野球に対するひたむきさと努力を学んだ」。これは帰国後、交流の記録集に寄せた滋賀の高校生たちの感想文の一節だ。

ミャンマー野球の実力はどうか。岩崎さんは「全体的にはまだまだ。でも日本の高校野球の有力校でも活躍できそうな子どもが何人かいる」と語る。

そんな話を聞きながら、私は国際貢献の確かな姿を見たような気がした。志と情熱、夢があった、それに大勢の人たちが共感し、支援の輪が広がる。それはスポーツにとどまらず、医療はもちろん文化、教育、環境など、あらゆる分野の国際貢献に通じることだ、と思う。

「ぼくはミャンマー」 河原 聖子

「ここ少し日本がミャンマーと関わった歴史をお話すれば」と岡田先生がお話を始めたのは、ミャンマーで過ごす時間も残り少なくなつて、最後の見学地日本人墓地へ向かう時だった。

歴史についてほとんど知識のないまま、この旅行に参加していた私にとって鈴木敬司陸軍大佐や南機関のこと、ビルマの「二十人の同士」と呼ばれる青年たちのこと、ビルマ独立義勇軍のことなど、どれも耳新しく大変興味深いお話だった。ビルマの独立は日本の戦略と言え、鈴木大佐とテウンサン、ネ・ウインなどの青年の間には人情あふれる交流があったようだ。それが今も日本とミャンマーの友好の礎となつてミャンマー人に親日家が多い理由でもあると教えていただいた。そしてもっとも「ミャンマーのことを知りたい」と思った。

また現地の方によつてきれいに管理された日本人墓地では、岡山の人が五千人以上もビルマの地で命を落とされたことを知り、むごたらしい戦争を想像して心を痛めた。

ところでミャンマーは見るとすべ

には物々しい様子は全然なく、人々は明るく活気のある町の雰囲気、金箔で飾られたバゴダや涅槃仏は、美しく見とれた。

しかしヤンゴンのホテルで朝、窓を開けた時に町の風景があまりにも汚いのは、ショックをうけた。繁華街はずなのに、さびた屋根、はがれたベ

ンキ、どす黒く汚れた壁、まるで廃墟と見紛うほどだ。道を走っている車も殆どが日本の中古車だが、それは他ならぬこの国の貧しさの表れだ。街角で出会う人は、インド系、アラブ系、東アジア系の人と、人種も民族も雑多な感じで複雑な社会構造を想像させる。こざらばりとした服装で通動している人もいれば、物乞いも少なからずいて貧富の差も大きいようだ。この国では古くから壊れかかった物でも使うのが当たり前。インレー湖に近いところでは欲しい物でも月に数回のマイ

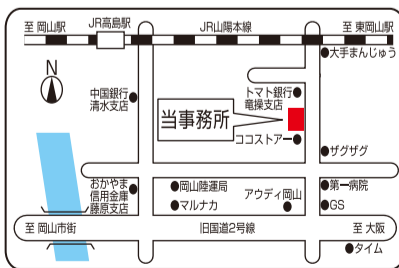
ケットでしか買えないそうだ。24時間品物が手に入る生活をしている私たちに比べて、なんと慎まじやかな生活をしているのだろうか。新しく便利な物が無くても、この国にはそれを補つて余りある人の優しさゆとりがあるのだろうか。この国では言論の自由や報道の自由が厳しく制限されていること、インフラの整備が不十分なこと、識字率は高いけれども教育環境に問題があること、医学技術や保健衛生の整備が遅れていることなどを考えれば、旅行が楽しかった、人々が優しくて素敵だったと簡単に片付けるわけにはいかない。彼らの素敵な笑顔と難しい国情を考えると、少し切ない気持ちになる。でもこの国には不思議な魅力と人をひきつける何かがあることを実感したのだ。貴重な体験ができて有意義な旅行になったことを感謝したい。

野崎明司法書士事務所

tel: 086-273-2225 fax: 086-273-2106

STAFF

- 司法書士・行政書士 野崎 明
- 司法書士 中谷 清子
- 土地家屋調査士 太田 正孝
- 税理士・行政書士 保都 直良
- 公認会計士・税理士 石村 顕示



登記・測量・破産・少額訴訟・遺言・成年後見・監査・税務(相続・贈与・売買)等、お気軽にご相談下さい。

〒703-8233 岡山市高屋219番地14 homepage address: http://www.office-nozaki.com E-mail: info@office-nozaki.com

◆◆◆ 会員のひろば ◆◆◆

このNPOに会員として参加させていただき、今回で3度のミャンマー訪問をいたしました。世界の最貧国の一国と言われていたミャンマーですが、私の感じた、或いは目にしたり言葉を交わした人々はとても陽気で貧しさなど全く感じさせない大らかな国民だと思いました。

彼らは日本という国に憧れを持ち、大変な親日家であります。軍事政権下のミャンマーに国としての何らかの期待は多くできない今日、我々のようなNPOがもっと友好を深め、アジアにおける友好国を作ることが大切なのではないでしょうか。

彼らに何か援助できることはないだろうか？何の技術も能力も無い私にとってできることといえばこのような会に入り、僅かばかりの会費を納め、それを友好に活用してもらうことくらいしかできないのです。一人一人の資金は本当に微々たるものですがそれでも会員の数が増えれば相当額になりNPOの運営もやり易くなるのではないかと思います。

そこで既存の会員や理事の方々にはお願いですが、もっと会員を増やすということに努力をしていただきたいと思います。会員を増やす方法はいくらでもあると思います。例えばミンガラバーも既に前回で7回の発行になりますが、一度として会員の獲得についての記事もなく、仲間内だけの報告書のように見受けられます。世間に対してこのNPOはこんなことをやっているのです、あなたもぜひ賛同していただけないかと言う強い呼びかけがあればどうでしょうか。またミャンマーを訪れるとき、理事の方々と一緒に参加者の交流なども必要な事だと思います。とにかく広く世間にNPOを知らしめる活動を起こさないと会員の増加はあり得ないと感じます。 <石野 順>

石野 順さまへ

常日頃からのご支援ありがとうございます。今回は建設的なご意見をいただきました。

会員獲得への広報をもう少し強化すべきであること、及びミャンマー訪問時には一般参加者と学術交流参加者の交流は高める必要があるというご意見ですが、私もまったく同感です。現在の会員数は正会員、賛助会員、理事を併せて約340名です。私の目標は1000名です。ミンガラバーの最近号では、ミャンマーからの招聘研修生の記事、また会員からの投稿をお願いする「編集室から」の欄など、内部の報告書から脱皮しているのを見ていただけたと思います。今回のトップ記事もミャンマーとの交流を中心とした内容となっておりますが、いかがでしょうか。本誌は国際交流センターにも配布しており、多くの方から読んでいただいております。また、本会は岡山県国際団体協議会にも属しており、その活動には広報も含めて積極的に参加しています。ロータリークラブ、ライオンズクラブへの講演なども含めて、会の活動はホームページ (<http://www.mjcp.or.jp>) に頻りにアップデートしております。是非、ご覧になってください。今後とも会員の皆様の積極的なご意見をお待ちしております。 (文責 岡田 茂)

現在、地球環境は非常に悪化してきて、未来は安心できるのでしょうか。

2030年には65歳以上の人口が3分の1を占めると言われています。そのような時代に向けて私たちは、今、何ができるのでしょうか自問自答して行動に移すべきではないでしょうか。

自分だけ、家族だけ、この地区だけ、日本だけでは、もう環境の安全を守ることはできません。

そこで、私たち会員は岡田理事長の元で何をすればよいのか、何ができるのかも一度自問自答してみましょう。

一人でも多くの会員を募り、医療関係者のみなさんが活動していただきやすい環境を整えることが大切な支援であると思います。

近い将来私たちは、高齢社会に立ち向かうときに、東南アジアの人々の力を借りるときがやがて、来ることでしょう。

従って、今、できることは今、皆様と手をとって一緒にやりましょう。 <日高 啓一朗>

日高 敬一朗さまへ

ありがとうございます。中国という近未来の超大国を近くに持つ日本は、東南アジア諸国からの支持がなければ、単なる老人大国になってしまうことは目に見えています。今こそ、人とひとの顔の見える人材育成に日本がリーダーシップをとる時期だと思います。一緒に手をとって支援して下さる皆様に感謝いたします。 (文責 岡田 茂)

広報室から

ご報告

- 9月12日 岡山市内にあるラヴィール岡山にて岡田茂理事長が、グリーンライオンズクラブ会員約30名に向けて健康についての講演。ミャンマーの題にも触れ会員募集の声をかけました。
- 9月30日 日本・ミャンマー医療人育成支援協会の援助でミャンマーより2名の医師ノー・テルシー(Naw Thelsy)とニン・パン・ニユン(Hnin Pan Nyunt)が来岡。岡山大学医学部放射線科 金沢教授の下で10週間に及ぶ研修予定。
- 10月 7日 岡山市田町、蓮昌寺にてビルマ戦没者慰霊祭が行われ当協会から10名が参加。我がNPOを代表して岡田茂理事長が挨拶し、冥福と平和を祈念しました。
- 10月10日 第8回理事懇談会を開催。新しい研修生も出席しました。懇談会の後、ムービーで懇親会を行いました。(詳しくはホームページをご覧ください)
- 10月11日 夕方6時のOHKテレビで「混迷ミャンマーから研修生来日」と題して、当協会の支援で来岡した研修生2名の様子が放映されました。
- 10月26日 研修中のノーさん、ニンさんが東南アジア留学生の一員として岡山県知事、岡山市長、倉敷市長を表敬訪問。岡田理事長も同行します。

●●● 第8回理事懇談会にて ●●●

<報告事項>

ヤンゴン下野クリニックについて

8月のミャンマー訪問時に総ての手続き、支払いが終了。12月には建物の完成、来年1月に引き渡し予定。今回のミャンマー情勢の影響が懸念されます。

寄付について

岡山西ロータリークラブ様より102,818円 岡山グリーンライオンズクラブ様より30,000円それぞれご寄付いただきました。

<協議内容>

特定非営利活動法人岡山県国際団体協議会 (COINN) への参加について
岡山県国際団体協議会 (COINN) への参加を理事長判断で決定いたしました。NPOに対する補助金、会合・広報情報など多くの情報が得られるとの判断です。初年度は入会金・年会費併せて10,000円で懇談会にて承認されました。

ミャンマーにおける子宮癌の検診開始について

岡山発の国際貢献応募事業。岡山県健康作り財団検診部などから中古検診用器具の寄贈を受けミャンマーに送る予定。送料などの負担は岡山県からの委託費で賄うことが承認されました。

一緒にしませんか？

● 毎週日曜 午後5時～ ●

ミャンマーの留学生のための日本語教室を開いています。ミャンマー語を覚えたい方、ミャンマーについて興味のある方、一緒に勉強してみませんか。参加をご希望の方はご連絡ください。 **090-8998-1508** 西山まで



▲ 勉強会にて



▲ 左からニンさん、ノーさん

不動産業
株式会社 晴れの国研究所

代表取締役 古武 義章

〒701-4221 岡山県瀬戸内市邑久町尾張350-5
電話(0869)22-9800 FAX(0869)22-9810 携帯 090-1689-8907

4種入パック …1,500円 2種入ケース ……800円

ギフト箱 …3,000円

ご注文・お問い合わせは
TEL086-221-2555
FAX086-221-2554



本物とは
身体のためによいものです。
基本は医食同源。

